

第5・6学年国語科学習指導案

第5学年

1. 単元名 学習したことを生かして
教材名 「大造じいさんとガン」

2. 単元について

(1) 児童について

5年生の児童は、これまで学習した「わらぐつの中の神様」では、昔語りをはさんだ作品構成であることに興味を示し、楽しんで学習を進めていた。4人の児童は、おみつさんや大工さんの行動や考えにサイドラインを引き、その語句から2人の心情や考え方、人柄を想像し、心が通い合う過程を学習していく中で、同じ年頃であるマサエの視点に立って読み取り、最後の場面には、マサエの神様に対する考えが変化した理由を考えることができた。どの児童も、登場人物に直接関係のある語句にサイドラインを引くことはできているが、情景描写と登場人物の心情をつなげて考えるまでには至っていないため、情景描写が人物の心情を描き出している「大造じいさんとガン」を学習することによって、情景からも人物の心情を考える力をつけたい。

(2) 教材について

第5・6学年の「C読むこと」における目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。これを受けて本単元では、「これまでの学習を生かして、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の心情と、人物の心の結び付きを読み取る。」を主目標とする。

本教材は、前書きと四つの場面で構成されている。前書きは、大造じいさんの人物紹介とともに、この物語成立の背景を語っている。各場面には4年間に渡る大造じいさんと残雪の戦いが1年毎にまとめて描かれている。一つずつの出来事を丹念に描き、それを次の伏線として設定し、次の年の出来事を積み上げていくという形式をとっているため、登場人物の設定、時間の経過、場所の設定などがつかみやすく、話の展開が分かりやすい構成となっている。また、大造じいさんの心理を絶妙に描き出している細かな行動の描写や秋の空や日の光を中心とした情景描写、仲間を助けるために戦う残雪の巧みな描写は、児童を物語の世界に引き込んでいく。児童はこれまでの学習を生かして、こうした言葉に着目して読み進めることで、最初は残雪を「たかが鳥のこと」と思っていた大造じいさんが、その知恵と頭領らしい態度に心を打たれるまでの心情の変化を読み取り、両者の心の結びつきを考えることができる教材である。

(3) 指導にあたって

本教材を指導するにあたっては、場面ごとに大造じいさんの行動と残雪の行動から、大造じいさんの心情を前の場面と関連づけながら読み進め、その変化に気づかせていきたい。その際、秋の空や日の光などの情景描写と関連づけて考えさせることによって、より深く大造じいさんの心情を読み取らせたい。特に大造じいさんが自分の作戦に対して絶対の自信を持っていること、残雪をいまいましく思っていたことをしっかりと捉えさせたい。それによって、三の場面後半に残雪の頭領らしい堂々とした姿を目の当たりにして、大造じいさんの心情が変化したことを読み取ることによって、この作品の主題を明らかにしていきたい。仲間を助けるために自分の命をも懸ける残雪の崇高な姿に、児童も大造じいさんと共に感動できるように学習を進めていきたい。

(4) 仮説にかかわって

重要語句を明らかにし、確かに読み取るための発問、指導の手立て。

- ・ 大造じいさんの残雪に対する心情を表している語句についての発問をすることで、大造じいさんの心情を深める。
- ・ 本教材は時間の経過にそって物語が進んでおり、1年毎の出来事を積み上げていく構成になっているので、場面毎の学習の軌跡を重要語句で掲示することによって、大造じいさんの心情を豊かに読み取る手立てとする。

重要語句に着目した読み取る力を身につけられるような支援。

- ・ 課題解決に役立つヒントカードを用意し、間接指導時でも自分の力で学習を進められるようにする。

3. 指導目標

関心・意欲・態度

- ・ 今までの学習を生かしながら、大造じいさんの心情や残雪との関係の変化について考えて読もうとしている。

読む力

- ・ 大造じいさんや残雪の行動や情景描写から、大造じいさんの心情の変化や両者の結びつきを読み取ることができる。

言語の力

- ・ 慣用的な表現の意味や動きを表す言葉、色彩語について理解することができる。

4. 指導計画（11時間扱い、本時8時間目）

	主な学習活動	評価規準	具 体 の 評 価 規 準		努力を要する子への支援
			A	B	C
第 一 次 つ か む (3)	1 全文を読んで物語の構成をつかむ。初めの感想を書いて話し合う。	(読)前書きと四つの場面から構成されていることをつかみ、心に残った場面について感想をもつことができる。	前書きと四つの場面から構成されていることや1年ずつまとめて描かれていることをつかみ、心に残った場面について理由をつけて感想や自分の考えを書くことができる。	前書きと四つの場面から構成されていることをつかみ、心に残った場面について感想をもつことができる。	構成に気がつかない場合は、前書きの表記の仕方や、大造じいさんの作戦の違いに気づかせる。登場人物のどちらが好きか考えさせ、好きな方について感想を書かせるようにする。
	2 難語句や慣用語の意味を調べ、確かめる。	(言)難語句や慣用語について調べ、意味や使い方を理解することができる。	難語句や慣用語について調べ、意味や使い方を理解し、短文作りをすることができる。	難語句や慣用語について調べ、意味や使い方を理解することができる。	
	3 場面分けを確認し、学習計画を立てる。	(読)場面ごとに大造じいさんと残雪の関係に関わった課題を作ることができる。	場面の内容や大造じいさんの残雪に対する心情に着目して課題をつくることができる。	大造じいさんの心情に着目して課題をつくることができる。	どんな場面であるか考えさせ、それをもとに課題を考えさせる。

第二次
まなぶ
(6)

<p>4 残雪の知恵のすばらしさを、改めて思い知る大造じいさんの心情を読み取る。</p>	<p>(読)残雪にうなぎつりばりの仕掛けを見破られ、思わず感嘆の声を漏らした大造じいさんの心情を読み取ることができる。</p>	<p>残雪をたかが鳥のことと考え、むねをわくわくさせていたにもかかわらず仕掛けを見破られ、思わず感嘆の声をもらし、たいした知恵をもっているものだと思えて思い知ったことを読み取ることができる。</p>	<p>たかが鳥のことと考えていた残雪に仕掛けを見破られ、思わず感嘆の声をもらし、たいした知恵をもっているものだと思えて思い知ったことを読み取ることができる。</p>	<p>大造じいさんが初めは残雪のことをどう思っていたかに着目させ、仕掛けが見破られた後との違いに気づかせる。</p>
<p>5 自信をもっていた作戦が失敗に終わった大造じいさんの心情を読み取る。</p>	<p>(読)今年こそと意気込み、自信を持っていた作戦が、また失敗してしまった大造じいさんの心情を読み取ることができる。</p>	<p>会心の笑いをもらすほど自信を持ち、今年こそは目にも見せてくれるぞと意気込んでいた作戦を、またしても残雪にしてやられて、「ううん。」とうなってくやしがあったことを読み取ることができる。</p>	<p>会心の笑いをもらすほど自信があった作戦を、またしても残雪にしてやられて、「ううん。」とうなってくやしがあったことを読み取ることができる。</p>	<p>作戦が失敗した後の大造じいさんに着目させ、心情を考えさせる。</p>
<p>6 おとりを使う作戦にかける大造じいさんの心情を読み取る。</p>	<p>(読)おとりのガンを使い、今日こそはと意気込む大造じいさんの心情を読み取ることができる。</p>	<p>真っ赤に燃える朝日のように闘志を燃やして、今日こそひとあわふかせてやるぞと息込んでいることを読み取ることができる。</p>	<p>わくわくする胸を押さえ、今日こそひとあわふかせてやるぞと息込んでいることを読み取ることができる。</p>	<p>残雪が仲間を率いてやってきた時の大造じいさんに着目させ、心情を考えさせる。</p>
<p>7 銃を下ろした大造じいさんの心情を読み取る。</p>	<p>(読)ハヤブサと戦う残雪を一度は狙うが、銃を下ろしてしまう大造じいさんの心情を読み取ることができる。</p>	<p>人間やハヤブサにかまうことなく、仲間を救おうとする残雪の美しい心、勇敢な姿に感心して銃を下ろしたことを読み取ることができる。</p>	<p>人間やハヤブサにかまうことなく、仲間を救おうとする残雪の姿に感心して銃を下ろしたことを読み取ることができる。</p>	<p>残雪がハヤブサと戦うところに着目させ、それを見ている大造じいさんの気持ちを考えさせる。</p>
<p>8 残雪の誇り高い態度にふれた大造じいさんの心情の変化を読み取る。 (本時)</p>	<p>(読)残雪の誇り高い態度にふれ、感動する大造じいさんの心情を読み取ることができる。</p>	<p>最期の時を感じても、堂々とした態度で頭領としての威厳を傷つけまいとする残雪の姿に心を打たれ、ただの鳥に対しているような気がしなかったことを読み取ることができる。</p>	<p>堂々とした態度で頭領としての威厳を傷つけまいとする残雪の姿に心を打たれ、ただの鳥に対しているような気がしなかったことを読み取ることができる。</p>	<p>大造じいさんと対峙した時の残雪の態度に着目させ、大造じいさんの気持ちを考えさせる。</p>

第二次 まなぶ (6)	9 残雪を見守る大造じいさんの心情を読み取る。	(読)英雄と呼びかけながら,残雪を見守る大造じいさんの心情を読み取ることができる。	晴れた日を選んで残雪を放してやりながら,ガンの英雄とまた堂々と戦いたいと心の底から思っていることを読み取ることができる。	ガンの英雄である残雪とまた堂々と戦いたいと思っていることを読み取ることができる。	大造じいさんの残雪に対する呼びかけに着目させ,大造じいさんの気持ちを考えさせる。
第三次 いかす (2)	10 大造じいさんの残雪に対する心情の変化を振り返り,作品の主題について考える。	(読)この作品の主題である,尊敬に値するもの,すばらしいものに感動する心を読み取ることができる。	残雪の行動や態度に大造じいさんが心を打たれ,鳥に対してであっても感動したところから,主題を読み取ることができる。	残雪を「たかが鳥」と思っていた大造じいさんが「英雄」と呼びかけたところから,主題を読み取ることができる。	「たかが鳥」から「ガンの英雄」に変わったところに着目させて,大造じいさんの心情の変化から主題について考えさせる。
	11 感想を深めて書く。	(読)感動したことを中心に感想を書くことができる。	感動したことを中心に理由をつけて感想を書いたり,自分の考えを書いたりすることができる。	感動したことを中心に理由をつけて感想を書くことができる。	物語の山場である大造じいさんと残雪が対峙する場面を想起させ,感じたことを書かせる。

5. 本時の展開

(1) 目標

残雪の誇り高い態度にふれた大造じいさんの心情を読み取ることができる。

(2) 評価規準

残雪のいかにも頭領らしい誇り高い態度に関心をもち,大造じいさんの心情を考えながら読もうとしている。(関心・意欲・態度)

残雪のいかにも頭領らしい誇り高い態度を目の当たりにした大造じいさんの心情を読み取ることができる。(読む力)

(3) 仮説に関わって

重要語句を明らかにし,確かに読み取るための発問,指導の手立て。

- ・ 「ただの鳥に対してしているような気がしない」という語句を取り上げ,大造じいさんは,残雪に対してどのような気持ちになったのか発問し話し合うことで,大造じいさんの心情を読み深める。

重要語句に着目した読み取る力を身につけられるような支援。

- ・ 残雪を「たかが鳥」だと思っていた大造じいさんが,残雪をどう思うようになったのか,心情の変化に着目させるようなヒントカードを用意しておき,間接指導時でも学習を進められるようにする。

(4) 展開

5 年 生				形態 (時間)	
留意点	支援	評価	重要語句	学習活動	
<ul style="list-style-type: none"> 残雪がおとりのガンを救うためにハヤブサと戦っているところを，一度は銃で狙った大造じいさんが，銃を下ろしたことを想起させる。 				1 前時の想起をする。 2 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 残雪の様子を見た大造じいさんの心情を読み取ろう。 </div>	つかむ 5分
<ul style="list-style-type: none"> 個別に音読させる。 <p>ただの鳥に対してしているような気がしない 頭領らしい堂々たる態度 いげんをきず付けまいと努力 最期の時を感じて サイドラインが引けない児童のために，残雪を「たかが鳥」だと思っていた大造じいさんが，残雪をどう思うようになったのか，心情の変化に着目させるようなヒントカードを用意しておく。</p>				3 学習内容を読み取る。 本時学習場面を音読する。 残雪の様子を見た大造じいさんの心情が分かる重要語句にサイドラインを引き、発表し合う。 サイドラインを引いた語句をノートに視写し、大造じいさんの心情を書く。 大造じいさんの心情を発表し合う。	ま
<ul style="list-style-type: none"> サイドラインを引いた重要語句を根拠として，発表させる。 					
<ul style="list-style-type: none"> 「ただの鳥に対してしているような気がしない」という語句を取り上げ，大造じいさんは，残雪に対してどのような気持ちになったのかを話し合い，大造じいさんの心情を深めたい。 <p>大造じいさんの心情の変化について，自分でまとめているか。(ノート)</p>				なぜ大造じいさんが，ただの鳥に対してしているような気がしなかったのかを話し合う。 話し合ったことをもとに，課題に対するまとめを自分なりに考えて書き，発表し合う。	ぶ 25分
				4 本時の学習をまとめる。 まとめを発表し合い，友達のよいところを取り入れ，さらにまとめていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 残雪をたかが鳥だと思っていた大造じいさんは，人間が近づいてもにげようとしていない堂々とした態度や，じたばたせずに頭領としてのいげんをきず付けまいと努力する残雪の姿に感動し，ただの鳥に対してしているような気がしなくなった。 </div>	いかす
<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習についての感想を 6 年生と交流し合うようにする。 				5 今日の学習を振り返り，次時の学習内容を確認する。	15分

(5) 具体的評価規準と努力を要する子への支援

	関心・意欲・態度	読む力
十分満足な子	残雪のいかにも頭領らしい誇り高い態度に関心を持ち、大造じいさんの心情を考えながら進んで読もうとしている。	最期の時を感じても、堂々とした態度で頭領としての威厳を傷つけまいとする残雪の姿に心を打たれ、ただの鳥に対してのような気がしなかったことを読み取ることができる。
概ね満足な子	残雪のいかにも頭領らしい誇り高い態度に関心を持ち、大造じいさんの心情を考えながら読もうとしている。	堂々とした態度で頭領としての威厳を傷つけまいとする残雪の姿に心を打たれ、ただの鳥に対してのような気がしなかったことを読み取ることができる。
努力を要する子への支援	銃を下ろした大造じいさんだったが、今度は残雪をどうするのか関心をもたせる。	大造じいさんと対峙した時の残雪の態度に着目させ、大造じいさんの気持ちを考えさせる。

(6) 板書計画

大造じいさんとガン

椋 鳩 十 作

残雪の様子を見た、大造じいさんの心情を読み取ろう。

たかが鳥

頭領らしい堂々たる態度

人間が近づいても、にげようとしな
りっぱな態度
まだ戦おうとしてにらんでいる。

最期の時を感じて

いげんをきず付けまいと努力

頭領らしく死のうとしている。
弱みを見せずにかんばっている

← だけの鳥に対してのような気がしない

鳥ではなく、まるで人間のようだ。
このりっぱな態度はただの鳥ではないようだ。

残雪をたかが鳥だと思っていた大造じいさんは、人間が近づいてもにげようとしないう堂々とした態度や、したばたせず頭領としてのいげんをきず付けまいと努力する残雪の姿に感動し、ただの鳥に対してのような気がしなくなった。